

今年度の研究のまとめ

みなさんの声

(1)自分を持つ

成果

- 児童の好きなことに取り組みせると、自然に伝えたいという意欲がわくことが分かった。
- 書くことが自分を持つことに有効だということが改めて分かった。
- 導入の大切さ。見通しを持てると自分の考えを書ける。
- 子どものこだわりを長所と考えて、学習活動を計画したことがよかった。(実態をよく見、学習内容・指導事項を見いだすということだと思う)
- 自分(考え)を持たないと話し合いに混ざれないので、自主的に本読みなどに取り組むようになった。

課題

- 苦手意識の強いものに取り組みせるにはどうすればいいか。
- 書く力を高める工夫
- 目的意識を持たせる工夫
- 教師のねらいと子どもの興味をいかに合致させるか。そのために必要なことは児童理解だろう。
- 課題を見つける目を養っていきたい。

(2)伝え合う

成果

- 考えたことを言おうという児童が増えてきた。
- 体験したことを話したり聞いたりすると抵抗なく伝えられる。
- 聞くことを重視するために、友達の考えを自分が説明してみるという活動を仕組んだ。そのことにより、自然と分からないところを友達に聞くこともできてきた。
- どうしても伝えなければならない場面を設定することもコミュニケーション力を高める。
- 質問したい・答えたいというきもちがしっかり持たせられるといい伝え合いとなった。
- 一人ひとりの疑問を随時、みんなの力で解決していくスタイルは続けていきたい。(時間を要する)

課題

- グループでの伝え合いに適切な人数が4人であると分かった。
- 話し合いの進め方カードなどで、話し合いを活性化していきたい。
- 伝えることはできるが、伝え合うというところまで高まらない。
- 聞き方の指導の工夫、各段階でどのような積み上げが必要か。
- 日常生活では特定の人との交流になることが多いのが現状である。
- より話しやすい雰囲気 非言語コミュニケーションがうまく取れるようにしたい。安心感

(3)振り返る

成果

- カード形式だけではなく、様々な振り返りのしかたに取り組んでいた。
- 相手意識のあるもの(日記や手紙など)で、振り返ると意欲的に振り返ることができる。
- 相互評価(先生方や友人)されるのも、非常に効果的である。友達の考えのおかげで分かったという経験をつませた結果、学ぶ喜びをふくらませ楽しかったという感想を得た。
- モデルを示し、自分で選択し自分の言葉として表現できるよう支援した。

○視点を持って毎時の活動を振り替えさせたことは次へのがんばりにつながりよかった。

課題

- 書かせると時間がかかるし、発言しただけでは残らないので、どうしようか迷う。
- 時間をかけないよう、自分で印をつけるようにしたが工夫が必要だ。
- ふり返る時間を毎時間確保することは難しいので、この1時間で自分が何が分かったのかを自分のノートを見たときに分かるような形で残させていく必要を感じた。
- ふり返りを次の授業に生かしていく工夫
- 評価とのつながり
- 障害児にとって自分を振り返るといのは、満足感、達成感、自信につながるものでなければ意味がない。自分で自分をどう評価したらいいか分からない子どもに、ふり返り方も具体的に指導していくことが必要になるのではないか。
- もっと友達のよさに目を向ける。

* 話し合いという音声言語による伝え合いのみに重点をおいてしまったので、「書く」という活動もバランスよく取り入れていかなければならないと反省した。

<これまでの学校研究をふり返り>

1 一人ひとりが「工夫」してくれた

授業研究会のたびに、「私は力のある先生方に囲まれているんだな。」と感じました。私が研究をリードできず、研究テーマに向けての個人研究のようになってしまいました。先生方が眼前の子どもをよく見つめ、よりよく学び合う集団にするために、考え、行動に移している。

2 研究会での話し合いを受け、日々、実践している

「グループの人数は6人より4人のほうがいい（声もよく聞こえ、ノートも見やすい）という指摘をうけたので、やってみました。あれから、4人でやっています」という。授業研究会が終わってしまうとあとはいいというようになりやすい。が、そうではなく、日々、研究するという態度に学びました。

3 先生方が自分を伝え合えることができるから、子どもにも「伝え合い」を教えられる

先生方の意見の伝え合いを見ていて、「こういう伝え合いができる先生方なら、子どもたちにも伝え合い学び合う力を育める」と感じました。自分にはないけど、子どもには求めるというようではいけないのではないかと考えます。自分も言語生活を営む一人の人として、思いを伝える大変さと伝える値打ちを日々、感じ、自分自身を鍛えようとする教師であれば、子どもはついてきてくれるのではないかと思います。

研究のまとめ (案)

1 自分を持つ

成果

- ① 日頃の生活を見つめ、子どもの興味・関心を生かした学習活動を計画すると、学習意欲につながり、自分の考えを持つこととなる。
- ② 導入が大切である。単元全体、または 1 時間の授業の導入のありかたが自分を持つことに影響を及ぼす (ねらいの持たせ方、見通しなど)。
- ③ 書くことで自分の思いが明確になる。

課題

- ① 教師のねらいと子どもの興味をいかに合致させるか。
- ② 課題を見つける目 (追究心) を育みたい。問いを持つ子。
- ③ 自分を持つとうとする (自分の考えを決定する) 習慣をつける。

2 伝え合う

成果

- ① 体験したことは伝え合いやすい。(自分の考えを持ちやすい)
- ② 伝えなければならぬ場面を設定することも、力を伸ばす。(実の場にすることの重要性)
- ③ お互いの考えを聞き合うことで、問題が解決したり、新たなことに気づくという学ぶおもしろさを大事にしたい。(自分が話し合うことでどんなに伸びられるかということを経験させたい)
- ④ 友達の考えを説明してみるという活動の意義の大きさを経験した。

課題

- ① なぜグループにするのかをもう一度考えてみたい。個人をよく指導するために
(大村はまは次のように述べている。「いろんな話し合いをして、3人で話し合えば4のものも5のものも生み出せるということを経験して、人と力を合わせていくことの意義を心から感じさせるとか、実際の社会的な技術として、どんなに気のあわない人とでも話し合っていくだけの、そういう力を持つこととか、それからだれにでも自分の話を分かってもらう技術を練るとか、いろんなめあてを達成するためにもグループは大切なものだと思います。」)
- ② グループ活動の下地作りをしたい。まず人と話す習慣のようなものがついていなくてはならない。
- ③ 手を挙げた人にあてるということをやめて、子どもを見て、発言させる技術を磨きたい。

3 ふり返り

成果

- ① 視点に沿ってふり返ることで、次へつながった。
- ② 相互評価のよさを経験した。
- ③ 振り返りの工夫をした。

課題

- ① ふり返ることのよさを見つめなおす。
- ② ふり返らせたいというタイミングを逃さない。
- ③ お互いのふり返りの内容にも学び合う。(固有名詞抜きで紹介したほうがよい)